



# 鹿児島県立 加治木工業高等学校

■在籍数 782人(2019年1月31日現在)  
 ■校訓 自主 向学 勤労  
 ■学科  
 ・建築科[定員40人] ・電気科[定員40人]  
 ・工業化学科[定員40人] ・機械科[定員80人]  
 ・土木科[定員40人] ・電子科[定員40人]



## 学校の特徴

創立108年の歴史と伝統を未来へつなぐ、意欲と創造力を育てる工業高校。校章は1948年4月に制定。三つの柅の木の葉を表徴し、これを工の字で結ぶ中央は旧加治木工業学校の校章を残し、高の字を入れたものである。部活動も盛んで2012、14年にソフトボール部が全国大会ベスト16、鹿児島県新人戦で弓道部が男女優勝し、バスケットボール部も県内の強豪校として知られている。2015年の高校生ものづくりコンテスト(測量部門)で九州大会最優秀賞。全国大会でも第2位(優秀賞)に輝く。

今月は加治木工業の4人です

# 輝け若人

兄の影響で建築の世界に興味を持ち加治木工業高校に入学することに決めました。正直、中学校のころまでの私は建設業に対して「きつい」「汚い」「危険」のいわゆる3Kのイメージを持っていました。さらに、夏は猛暑の中でたくさん汗を流しながら作業をし、冬は厳しい寒さの中



加治木工業高校 建築科 3年

## 田中海聖さん

## 建設業に対する思い

ど命の危険も伴うこともあり、あまり良い印象はありませんでした。

制作実習などを通して、そのときに得られる達成感から、いつのまにかこの業界に

さらに建設業に対しての思いが強くなりました。ある現場では、そこ

で働いたり大変そうだと考えていました。また、大きな重機を使用したり、高所作業な

しかし、学校で専門的に建築のことを学ぶうちに私の考え方も次第に変わっていきまし

する魅力を感じるようになってきました。特に2年生時のインターンシップ体験では、

にはたくさんの方がかわっていて、現場の強い団結力を感じました。住宅を造っている現場では、一人ひとりが仕事を分担し合い、作業されている姿がすごく印象深く脳裏に焼き付いています。私たちが普段、何気なく使っている道路や施設なども建設業の力なんだと改めて知ることができました。これから私はこの業界の一員になります。人とのつながりを大切にし、任された仕事を全うできるように頑張ります。そして、この業界に誇りを持って社会のために尽くしていきます。



全国的に道路や橋梁などインフラの高齢化が進む。本県においても、各自治体で維持管理費が課題となっている。国のSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)では、横断的に産学官が

## インフラの高齢化

連携を図り、基礎研究から実用化・事業化まで研究開発を推進し、社会を飛躍的に変える科学技術イノベーションに取り組んでいる。

1月29日、鹿児島市の鹿児島大学稲盛会館で2018年度SIPのインフラ維持管理の研究開発の検証試験報告会があった。写真。国や各町村の関係機関、コンサルタント、学生ら約80人が出席し、革新的最先端技

## 産官学が連携し

## 革新技术で維持管理を

今回の発表会では、実際にドローンで稲盛会館を撮影、大成建設の画像解析ソフトを用いて大進の技術者による模擬点検も実施した。



働きやすい環境や業界の魅力を伝えた説明会=鹿児島市の鹿児島工業高校

プランテムタナカ 藤田ワークス

## 曾木の滝公園を舞台に

## 古民家計画案を作成

鹿児島高専

鹿児島工業高等専門学校(高専)の都市環境デザイン工学科5年生17人は、授業の一環で伊佐市にある曾木の滝公園に古民家を移設する計画案を作成した。



昨年10月から現地調査を行うなどして、1月から模型づくりに着手。計画案は、実地や講義で学んだことを生かした自由な発想を盛り込んだものとなった。

## 進路決断に備え

## 鹿工高で企業説明会

県は鹿児島市の鹿児島工業高校で1月30日、工

業系高校に向けた県内企業説明会を開催した。進路を決断するその日に備え参加した2年生約350人にとって、人生の新たなステージへつながるルール構築の礎となった。

同協会の人材育成対策室の加世田登室長は「業界の人手不足が顕著。今後もこういった機会へ積極的に参加してほしい」と企業へ呼び掛け、生徒には「会社社名を覚えてもらい選取肢の一つにしてほしい」と期待する。

このほか、大進の中野智章氏が3次元スキャナーの利点などを紹介。3次元データとしてモデリングすることで維持管理の基礎データになることや部材の劣化進行、補修個所の正確な記録が可能になるなど今後の可能性に触れた。

わかない空間づくり、写真撮影スポットのスペースを設置するなど、各班アイデアを凝らした提案が行われた。木場湧也さんは「滝と古民家が調和するように配置を考えた。県内の建設業に就職するので、こ

の経験を生かして地元で貢献できればと思う」と話した。中俣氏は「今後も景観まちづくりに携わってほしい。技術者としてふるさとを盛り上げる存在になってもうれば」と期待を込めた。

参加した生徒は「建物をつくるのはおもしろそう」、「県外を希望していたが県内で働くのもいいかも」など、前向きな反応を示していた。建設関連の参加企業は次の通り。

南生建設 前田組 坂本建設 江藤建設工業 丸福建設 内村建設 新生組 森山備組 野添土木 新留土木 九州タブチ 南光 日建ラス工業 中川製作所 センテイ 土佐屋生コンクリート